

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名	兵庫県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	篠山市立篠山東中学校					
学 年	1年	2年	3年	障害児学級	計	教員数
学級数	3	2	3	2	10	23
生徒数	85	78	90	4	257	

研究の概要

1. 研究主題

たしかな力を持ち、磨きあって自己実現に向かう生徒の育成

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

- ・全学年の国語
表現力や語彙能力、心情把握能力等を育むため。
- ・全学年の英語と数学
生徒に対する実態調査の結果から、実施学年・教科の枠を広げ、研究に取り組むため。

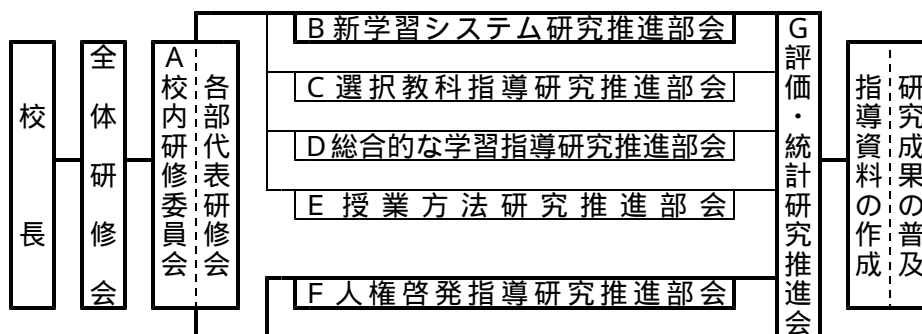
(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ 基礎・基本を伸ばすために何を大切に、何を取り入れていくのか。 研究の見通し 生活面...地域との連携を通して、地域を意識させる。 学習面...少人数を通して、意欲を磨き、他者を認識させる。 研究の内容・方法 生活面...地域ボランティア活動など 学習面...新学習システムの推進(理科・英語・数学) 組織作り、授業研究、課題研修、先進校視察、アンケートなど</p>
--------	---

平成15年度	<p>テーマ 生徒の学習意欲を向上させるための指導のあり方や授業の進め方 研究の見通し 生活面...地域の様子を知り、地域の一員としての自覚を持たせる。 学習面...少人数を通して、自己を磨き、学び方を養う。 研究の内容・方法 生活面...地域体験活動(里山、ボランティアなど)など 学習面...新学習システムの推進(国語・英語・数学) 評価、授業研究、課題研修、先進校視察、アンケートなど</p>
--------	---

平成16年度	<p>テーマ 自己実現に向かう生徒の育成 研究の見通し 生活面...地域の一員としての活動を行う。 学習面...習得してきた学びを生かしていけるようにする。 研究の内容・方法 生活面...地域体験活動など 学習面...新学習システムを中心とした授業 評価、授業研究、課題研修、先進校視察など</p>
--------	---

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

教師

- ・東中授業システムが徐々に浸透し、どの教科においても生徒が同じ姿勢で授業に取り組めるようになってきた。また生徒会が自主的に授業規律を作り、全校に呼びかけを行う取組を行えたことは大きかった。
- ・教師サイドとして、授業研究の機会が多くあり（一人1回の公開授業）、「授業」に対して相互に学ぶことができ、授業改善に役立てることができた。
- ・自ら発表する生徒が増えてくるとともに、答えを導く過程を大事にしようとする雰囲気が芽生えてきた。
- ・教え合うことやとも考えようとする相互支援の姿が増えてきた。
- ・課題別編成は、機械的編成より生徒の内面にある劣等感的要素を改善し、意欲を高めるのに有効であると、発表する場面や相互支援の場面、自己評価等より感じる。

生徒（3年生数学科学習記録より）

- ・私は、Aさんの説明の方が分かりやすかったです。まだ少し難しいところがありますが、もっとたくさん問題を解いて、慣れていきたいです。
- ・いっぱい発表ができてよかったです。これからもバンバンしていきますので、よろしくをお願いします。
- ・とってもよく分かりました。休んだ日の分の遅れも取り戻せた。
- ・ちょっと難しかったけれど、B君に教えてもらって理解することができてよかったです。
- ・まだ不安なところがあるけれど、家で今日の復習をして頑張っていきたい。

2. 今後の課題

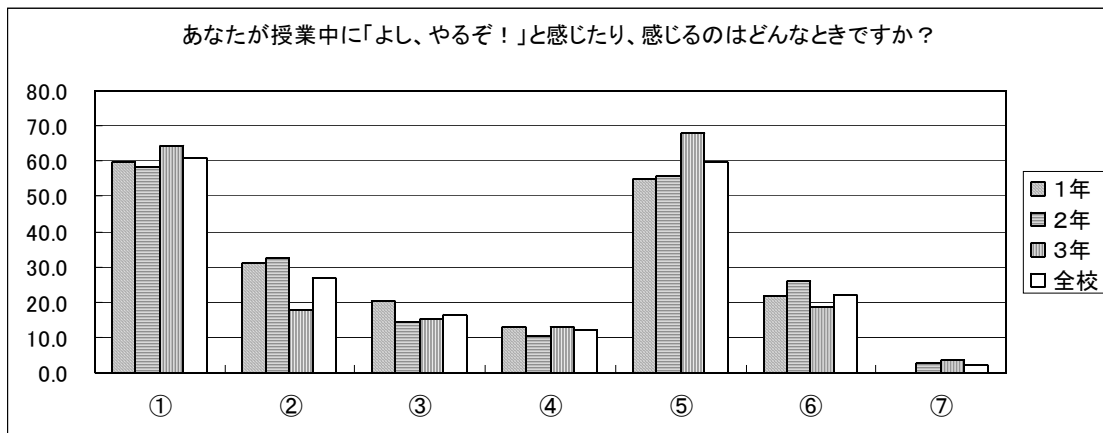
教師

- ・「聞く」と「聞かせる」の区別を明確にした授業がまだまだできていない。
- ・「しかけ」のある授業や「しかける」授業がまだまだできていない。
- ・静かなら「良い」でなく、聞く姿勢を伸ばし育てていく授業が必要がある。
- ・教科担当で教材研究や適時TT指導できる教育課程上のゆとりが必要である。
- ・個人や集団を振り返るゆとりが必要である。
- ・行事がこなすだけの行事になってしまい、個を育てる「感動」や「達成感」などが感じられない。
- ・アンケートの分析を各推進部の取り組みに振り返らせ、「計画 - 実施 - 評価」のサイクル化をより意識して取り組む必要がある。
- ・アンケートに対して、数値目標を設定し取り組む必要がある。
- ・ビジョン（教師の自主性や自律性）の共同化をより進めていく必要がある。

生徒

生徒が生き生きと学習しながら成長してほしいと願いながら授業に取り組んでいるわけであるが、学習を成立させるためには、生徒一人ひとりの学習状況の特徴をとらえる必要がある。そのために、「学習への意欲を高める要因」を探るためのアンケートを行った。下記のグラフは、そのアンケートの中の一例である。

授業への意欲関心アンケート



- ①「今までよりもよくできるようになった。」と感じたとき
- ②自分の考えや作品などを先生がほめてくれたとき、認めてくれたとき
- ③自分の考えや作品などをみんながほめてくれたとき
- ④自分の考えがみんなと同じであったとき
- ⑤自分の力で作品ができたり、問題が解けたとき
- ⑥自分の考えがうまく説明できたり、言えたとき
- ⑦その他

上記アンケートは、自己の学習をどのようにとらえ、教師や友人からの評価をどのように受け止めているかを知るためのものである。結果を見ると、全校的に「できた」という思いを体感すればするほど、学習への意欲や関心度が高まる傾向にある。

操作活動や創作活動、体験活動の改善や教材の開発、導入の工夫などを図りながら、評価についての研究も進めていかなければならない。また、生徒たちの発達段階にふさわしい指導について、研修等を通して学び、授業実践を積み上げていく必要がある。

来年度の取り組み

- ・小学校との交流...学力向上と生徒育成のための連携
- ・体験活動...生徒の内面向上及び地域との融合
- ・授業研究...指導者の力量の向上と学力の向上
- ・研修...視野の広範囲化と力量の向上
- ・他校との連携...指導力の向上と情報交換
- ・研究冊子...取組の確認と公開

学力把握のための学校としての取組

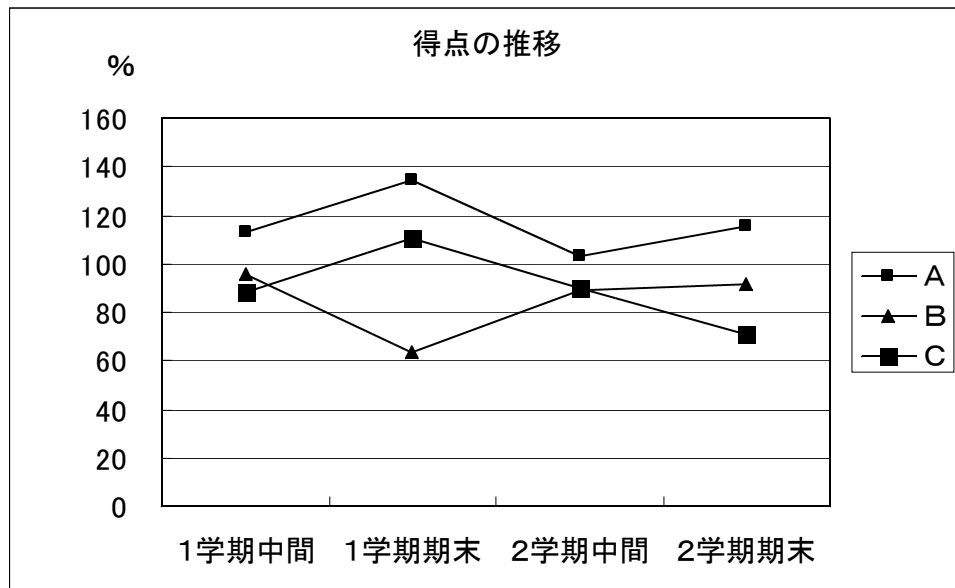
1. 主な取り組み

生徒の実態を把握したり授業を分析・評価するための方法として、少人数授業などきめ細かな指導領域においては、

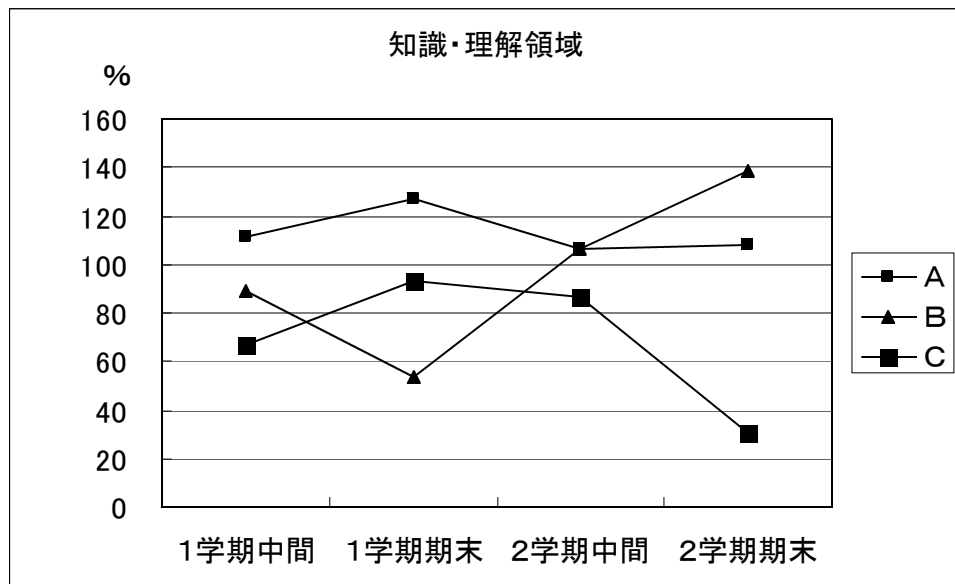
- ・自己評価カード...授業及び単元ごとに自己の取り組みについて評価
- ・単元テスト...生徒のつまずきや理解の様子把握と手だて
- ・テストの分析...内容に対する生徒の様子把握とアドバイス
- ・基礎テスト...つまずきの把握
- ・アンケート...推進への評価及び保護者の願いの把握、手だて
- ・教科担当者会...指導法等の確認と検証
- ・教科懇談会...保護者への説明責任

などを取り入れながら、授業（指導法など）や取り組み（指導体制など）を検証・評価しながら、生徒の育成や学校の基盤整備を図っている。

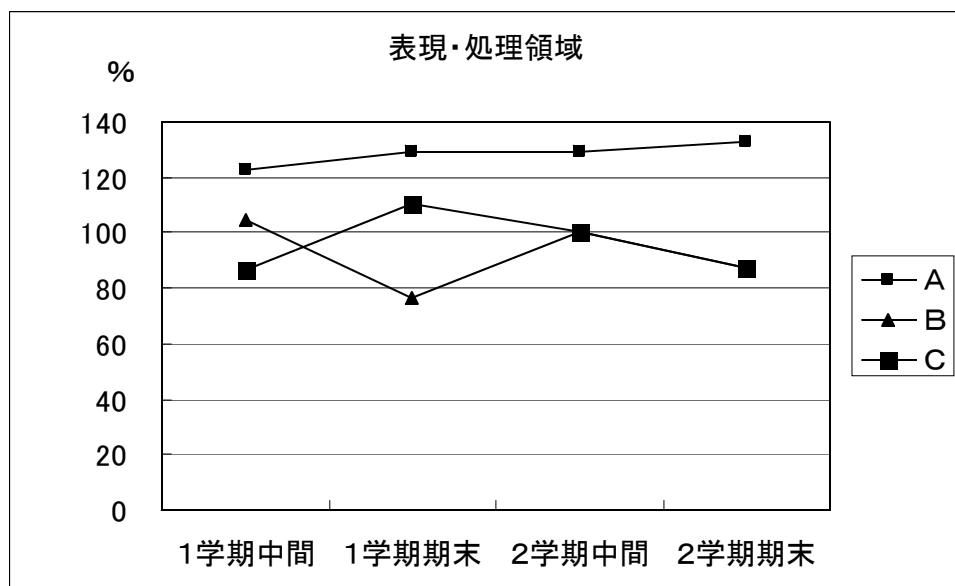
2. 3年生数学科における平成15年度の定期テストより（平均値を100とする）
《グラフ1》



《グラフ2》



《グラフ3》



- 注1 A...「発展コ-ス」で意欲的に学習に取り組んでいる生徒
 B...「基礎・基本コ-ス」で意欲的に学習に取り組んでいる生徒
 C...「基礎・基本コ-ス」で受け身的に学習している生徒
 注2 グラフ1は得点の推移を、グラフ2とグラフ3は、数学の評価4項目の中の「知識・理解」と「表現・処理」領域を取り上げたものである。

Aの得点状況を見ると、3年生になってから学年平均以上の得点を獲得できるようになってきている。領域別で見ると、特に「表現・処理」領域で上昇傾向を示している。やはり、自分の意見が発表できるようになったことが自信となっている。自信を継続できるように指導を続けている。
 Bの得点状況を見ると、ほぼ平均を獲得出来るようになってきている。特に「知識・理解」の伸びが安定に貢献している。基礎計算の取り組みが一つの成果を上げていると考えられる。数量関係の把握に重点をおいて指導を続けている。
 Cの得点状況を見ると、1学期後半より下降傾向にある。最も大きな要素として、「知識・理解」の落ち込みが大きい。継続した学習ができるように指導を続けている。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

1. 研究会及び研修会
 - 平成15年度 各学期に1回小中学校の交流や連携、授業作り等を目的に授業研究会・研修会を開催
 小学6年生の児童と保護者を対象に、学校の様子や取組の公開等を目的にオ-プンスク-ルを開催
 - 平成16年度 10月の第2週に3年間の成果等を目的に研究発表会の開催を予定
2. 研究成果の普及
 - 平成15年度 研究冊子を作成し、丹波地区内の教育関係機関及び小中学校に配布予定
3. フロンティアティ-チャ-としての活動
 - 他校との情報交換及び取組の報告
 - 小学校との連携
 - 職員への情報発信及び取組への啓発
 - アンケートの集約及び分析
 - 各推進部の活動の調整及び啓発
4. 成果
 - 少人数の分割法などについては、いくつかの学校より本校の方式で成果を上げたという声をいただいている。
 - 小中との連携において、小学校より授業規律の大切さを理解した、小中のつながりを大切にしていきたいとの声をいただいている。
 - 連携して研究していきたいと数校より依頼がある。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 3学級以下 4～6学級
 7～9学級 10～12学級
 13～15学級 16学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 その他
- 【研究教科】 国語 社会 数学 理科
 外国語 音楽 美術 技術・家庭
 保健体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無